

令和7年度 自己評価書

令和8年3月23日
真庭市立湯原こども園

1. 湯原こども園の教育保育目標

保育方針

○人としての基礎が作られる重要な時期である乳幼児が、健康・安全で情緒の安定した生活ができるように、保護者、家庭、地域と連携を図り協力し合うことにより、心身ともに健やかに育つ保育・教育をめざす。

教育・保育目標

「人や物、自然とのつながりの中で、
心身ともにたくましく心豊かに育つ子どもの育成」

よく見て、よく聞いて、よく考えて行動する子どもをめざして

2. 本年度の重点目標

本年度研究テーマ

「“やってみよう” “もっとやってみよう”

一人一人を大切に 自己肯定感を育みつなげる保育の実践」

～たくさんの「いいね」をみつけよう～

○安心できる環境の中で心ゆさぶられる体験を通して豊かな心を育む

- ・一人一人の思いや育ちに寄り添い愛着関係・信頼関係を育み心が通い合う中で安心して自己表出できる環境づくり。(保育者とつながる)
- ・遊びや生活の中で友達のよさに気づき、お互い認め合う中で自信をもち、温かい人間関係を土台に心がつながる集団づくり。(友達とつながる)
- ・子どもの「やってみよう」「やってみよう」と心を動かす経験を引き出す保育者の援助と環境構成。(心がつながる)
- ・子どもの興味・関心を捉えた環境構成の中で「楽しかった」が友達や次への活動へつながる保育者の援助。(遊びがつながる)
- ・地域の自然環境とのつながりや様々な人との交流を通し、優しさや思いやる心など豊かな心情を育む人と物との関わり。(地域の人々や自然とつながる)
- ・異年齢児交流を通し人を大切に思いつながりを深める「ぼかぼかタイム」実施。
- ・基本的な生活習慣の確立

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	各年齢で子ども主体の保育計画を立案し実践した。子どもの姿や育ちを丁寧に捉え育てたい力を明確にし、環境構成、保育内容の検討に努めた。	4
行事	行事計画は保育からの流れを大切にし、子どもの育ちへの繋がりを職員間で検討した。課題を話し合い次への計画へ活かすことが出来た。	3
組織・運営	職員間での連携において対話の重要性を再認識し、話しやすい雰囲気の中で職員同士の協力体制の強化に努めた。共有し合うことが子ども理解へ繋がった。	4
学級経営	肯定的に子どもの姿を捉え、子どもの姿に寄り添いながら信頼関係を基盤に、個々の子どもの育ちを支えた。異年齢児保育で保育の幅が広がった。	3
特別支援教育	職員全体で子どもの姿を捉え、専門機関と連携を取りながら子どもの育ちを支えた。保護者の気持ちに寄り添い成長を喜び合えることを大切にした。	4
安全管理・保健指導	火災・水害・地震・不審者等、対応できるよう訓練を実施した。乳幼児期の安全教育の意識を高めることが出来た。職員の危機管理意識も高まった。リスクマネジメントも園内共有していきたい。	4
研修（資質向上）	ドキュメンテーションを活用し研修を行うことで、子どもの興味・関心、学びや育ちを捉える視点や子どもの内面理解、援助、環境構成についての気付きが保育の質の向上となった。	3
情報提供・保護者・地域との連携	保護者にはICTシステムを利用し、園日より、行事予定また、災害時の情報を効率よく発信することができた。地域の人と世代交流を通し、関わる力を育てることができた。	3
小学校との接続・連携	連携を深めるために小学校から園内研修に参加してもらい、遊びの中での子どもの学びを職員間で共有することができた。小学校との交流会の回数も増え就学に向け子ども達の期待が深まった。	3
子育て支援	一時預かり事業では、地域のニーズに応えられるように人員確保した。保護者の学びの場となるように、参観日を利用し保護者向けの参加研修を行うことが出来た。子育ての不安や悩みを相談しやすい園となることが課題である。	3
食育の推進（給食）	食育計画に基づき季節に応じた食材、行事を通しての食文化、地元の食材調理等、担任と調理員との連携によって進めることができた。	3
食事の提供（調理）	アレルギー食では、担任と調理員とが確認し合い連携し声を掛け合いながら、細やかな対応に努めた。安心安全な給食提供を徹底した。	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
保育の質の向上	職員研修では、ドキュメンテーションを取り入れ遊びの中の学びを10の姿を用いて育ちを見取り遊びの中の学びを職員間で共有し共通理解していた。	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

本年度の重点目標に沿ってたくさんの「いいね」をみつけようから、保育者は子どもを肯定的に捉え、言葉にならない子どもの声、思いや願いをしっかりと読み取りながら、子どもを理解し、一人一人を大切に子どもの自己肯定感を育む保育実践に取り組んだ。子どもの思いをしっかりと受け止めることで、温かい関係が築かれ、子どもが安心して自己表出し、のびのびと遊び健やかな心と体が育ったように思う。クラスの中でも友達によさに気付き、お互いを大切に思う気持ちを育むことができた。また、温かい人間関係が基盤となり、心が安定することで、生活、遊びの中で、子ども達が自分から「やってみよう」と意欲をもつことができた。そのことが、一人一人の自己肯定感を高めることに繋がったように思う。保育者は、子どもが心を動かす遊びの重要性を再確認した。人的環境、物的環境をどのようにしていくのか。そこで職員間で育ちや学びの方向性を共有していくことが大切と考え、本年度は、ドキュメンテーションを活用し園内研修を行った。対話を通じた研修を重ねることで、子どもを多面的に見ることができ、職員間でたくさんの気付きを得ることができた。また、保育者同士の保育観を理解し、互いの学びになった。今年度は、年間を通して、身近にある自然を十分に活かせてなかったように思う。自然は、好奇心、興味、関心が子どもの心を動かす大切な環境であるので今後は、自然の中での体験をしっかりと取り入れ子どもの活動経験を広げていきたい。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

ドキュメンテーションを活用した園内研修では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点をもって子どもの遊びの姿を読みとることで、保育の過程を振り返り、評価し、改善に繋がった。今年度は、園内研修に小学校からも参加してもらい、遊びの中の学びについてお互いが理解を深めていけたように思う。園から小学校への育ちの連続性を大切にしていけるように引き続き連携を強化していきたい。

本年度の保護者アンケート結果から、子どもの思いや気持ちを大切に保育し、温かい保育であるとの声が多かった。今後も子どもや保護者が喜んで登園でき、居心地の良い環境となるよう職員間で連携し保育・教育の充実に努めたい。

家庭において、早寝・早起き・朝ごはん等、基本的な生活習慣の課題も多い。家庭との連携しながら子どもの成長に寄り添い、生活習慣の定着に取り組んでいきたい。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である